



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

Theme of Rotary International 1995-96

Act with Integrity
Serve with Love
Work for Peace

真心の行動 ● 慈愛の奉仕 ● 平和に挺身
1995～96年度・国際ロータリーのテーマ/ハーバードG.ブラウンR.I会長

●本日の例会

4月5日/第457回例会

■96～97年度 千代田区分IM 10周年記念行事 準備セミナー

●先週報告

3月29日/第456回例会



安藤 篤好 氏

■卓話「箱根よもやま話」

松坂屋館主 安藤 篤好 氏

■幹事報告

- ① 4月定例理事会を4月5日(金)例会後開催致します。
- ② 第2回クラブフォーラムを4月17日(金)13:10～15:00テーマ「ロータリー情報」で開きます。全会員のご出席をお願い申し上げます。

■親睦活動委員会報告(川鍋委員長)

- ① 4月14・15日の親睦旅行には、10名の奥様を含め総勢34名のご参加申込を頂きました。本日確認の書類と当日のご案内書類を参加者全員にお配り致しましたので、お目通しを頂きまして、当日は時間迄に新幹線ホームにお集り下さい。
- ② 来週4月2日の火曜会は、お話の時間が6時からでございますので皆様少しお早めにお集り下さい。

■SAA委員会報告(新保委員長)

4月～6月末例会までの着席方法を住所別とさせていただきます。ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

■慶事披露 ●誕生日/佐々木忠行君(3月30日) ●100%出席/二宮利泰君(9年)

■出席報告 ●会員71名・出席55名・欠席16名(出席規定免除者2名)

ビジター(6名 敬称略)/高木彦二(東京)、吉田輝彦(東京葛飾東)、矢野 弾(東京世田谷)、岩尾 撥(東京銀座)、渡辺三郎、保科 正(以上東京南)
ゲスト(2名 敬称略)/RACHEL BLASER(来日青少年交換学生)、SERAH BLASER(交換学生の姉)

ニコニコBOX

順不同・敬称略
3月29日9件 24,000円
95～96年度累計1,708,563円
多額のご寄付を有難うございました。

鈴木重徳/レイチェルさんのお姉さんの来日を歓迎します。佐々木忠行/本日は、誕生日のお祝いありがとうございます。廣瀬哲久/このところカフン、カフンで桜や新緑が待ち遠しいこのごろです。高須康有/欠席が続きましたので。西澤正雄/年度がわりとなりました。来年度は明るい年度になると良いですね。小杉真史/先日の夜間例会二人でお世話様になりました、ありがとうございます。宮本正祥/宮武さん先日はお世話になりました。サラさんようこそ。二次会一同/先週夜間例会二次会費用の残りをニコニコします。新保國彦/ニコニコ当番ピンチヒッターです。御協力ありがとうございます。

■「アラスカでの活動がシベリアの扉を開く」

昨年10月にアラスカで開かれたロバート・ブラウン R.I会長主催の会議にシベリアと極東ロシアのロータリアンが出席した。ウラル山脈以東のロシアのクラブは34人のロータリアンを出席させ、オーストラリア、カナダ、日本、韓国、フィリピンの出席ロータリアンと交流を図り、元共産圏のロシアに於いてどれだけロータリー奉仕が必要とされているかをよりよく理解し、必要な奉仕を提供したいという決意を深めた。シベリアのRCに対

し図書、コンピューター、ジュニア野球クラブの野球用品等の寄贈が実現することになった。又何人かのロータリアンはロシア東部で事業、英語教育、医療その他の分野でボランティア奉仕をする意志を表明した。又ロシア人たちは経験豊かなロータリアンからRCの活動について一層の理解を深めることになった。

「Rotary World」より R情報委員会 村川

●次週予告

4月12日/第458回例会

■卓話予定「最近の雇用と失業」

日本労働研究機構研究所長 高 梨 昌 氏

「防災を考える」

とき 96年3月29日(金) 例会後13:40~15:15
 ところ 東京全日空ホテルB1 八雲の間
 出席者 33名(順不同、敬称略)
 荒木、馬場、平井、伊部、入沢、岩瀬、加藤、河原、川鍋、
 清原、宮本、宮武、西澤、大日方、沖、佐藤、関、柴本、
 柴藤、四分一、島田、鈴木、田島、高須、武下、田辺、田中、
 立林、渡邊、山川、柳澤、保森、吉田

第5回クラブ協議会は、山川会長の挨拶とテーマの主旨説明の後、入沢社会奉仕委員長の司会のもと討議に入った。

「地域社会調査委員会活動報告」

渡邊地域社会調査委員長

1. 組織および名称。当委員会は昨年7月の理事会の承認とともに発足いたしました。組織的には社会奉仕委員会に属する小委員会ですが、他の多くの小委員会同様、「小」を削って表記の名称に決まりました。
2. 発足の趣旨・目的。主として当クラブのテリトリーにおける社会奉仕活動の分野において、各種情報、資料等を取集・整理し、これを社会奉仕委員会に提供することによって、同委員会の活動対象の選定を側面から支援せんとするものです。
3. 活動状況
 - (1) 1995年9月25日、港区区役所厚生部を訪問。区が行う福祉活動は法律で定められた事業(いわゆる法内事業)であるから、予算措置が確保されており、従って外部民間から支援は、労力、資金ともに必要ないとの回答に接した。
 - (2) 同年11月10日、港区社会福祉協議会を訪問。同協議会は港区厚生部からの委託事業のほか独自の福祉活動をも展開しているが、その際同組織内にあるボランティア・センターなるものが重要な役割を演じていることを知る。ボランティア・センターには現在約600の個人と約60の団体が登録されている。ボランティア・センターの仕事はボランティアに対する需要と供給の仲介、斡旋を中心としている。
 - (3) 同年12月15日、千歳船橋の世田谷ボランティア協会に牟田悌三理事長を訪問。当協会は、社協系ボランティア・センターと異なり、体験研修プログラムを通じてまことに広範なボランティア活動を展開していることを知らされる。
 - (4) 昨年12月から今年1月にかけて当委員会委員全員が港区ボランティア・センターに個人として登録を完了。
 - (5) 今年2月27日の打合せ会において、今後はボランティア活動についての一般的な情報収集だけでなく、極力いろいろなボランティア懇談会とか、ボランティア体験者の会合等に各委員手分けして出席し、より生きた情報の収集に努めることを申し合わせた。今期残された期間としては長くはないが、ボランティア活動の調査という点に焦点をあてて、当委員会の活動を展開して参りたいと考えている。

「防災を考える」

1. 港区の防災対策について

港区との勉強会を通じて学んだこと

大日方社会奉仕副委員長

港区の防災課長から2回話をうかがった。地球の表面はサッカーボールのように10数枚のプレートで覆われていて、このプレートの移動で地震や火山活動が起きる。日本列島付近では4枚のプレートが接しており、その境界(トラフ)でM8クラスの巨大地震が10年に1度、M7クラスの大規模地震が年1回発生している。Mが1上がると地震エネルギーは

32倍、2上がると1,500倍になる。

港区での巨大地震が発生すると15万区民の他に9時間かけても帰宅できない人が多数であると想定して、日頃の備え(予防対策)、発生した瞬間の処置(応急対策)、災害が起きたあとの対策(復旧、復興対策)を進めている。地震発生の際は、自分で自分を守るしかない。まず一時集合場所に集り、状況に応じて広域避難場所に移動する。人的被害は高齢者などの弱者に集中するので弱者対策に力を入れる。

話をうかがって、地震発生時の情報伝達の仕方や住民と企業の協力について、知恵を出し合うことの重要性を感じた。

2. 米国の危災害危機管理システム

FEMAについてスライドによる報告 清原社会奉仕委員

FEMA(アメリカ連邦緊急管理庁)は、1979年に発足、本部はワシントンDCにあります。全米に10の支部があり、職員数は2,700人、年間予算8億5千万ドル、救援基金13億ドル。災害発生時の緊急対応へのスピード性、有効性、生産性を目標にした、大統領直轄の組織です。

大統領と直接連絡が取れる事により、最新情報が集中し、援助資金、物資などを被災地に提供するほか、大統領を通じて、26の省庁や、軍、州に救援の要請を出す事が出来ます。“平常時の活動” 災害発生時における、市、州、国の役割を明確にし、計画をつくり、素早く対応できる為の準備、訓練、関係機関とのパートナーシップを構築しています。

“災害時の活動” 12の緊急支援機関をコンダクターして郡(市町村)の救援活動を支援します。活動のプラン、方法は、主要機関に任せ、命令はしません。強力な支援調整役として、スピーディーな、救援をサポートしています。

〈意見交換〉

①企業サイドから見た防災について

島田社会奉仕委員

防災の勉強会に出て、一番印象深かったのは、昼間人口と夜間人口の差が大きいのに驚いた。会社の人々の住居は、大部分が、千葉県、埼玉県であり災害が起きたら、帰宅が出来ない可能性が大きい。そこで、社内防災組織を作った。1人当たり3ℓの飲料水、おかゆ、モチ等の食料の備蓄を実施した。個人情報及び緊急連絡先、責任者のTEL番号等の記載された防災マニュアルを作成し、社員に配布した。

②住民の立場から見た防災について

四分一地域社会調査委員

米国のFEMAのビデオを見て、日本の社会と違って災害時の団結力がU.S.Aは強いと感じた。昔は、町会組織がしっかりしており、町には消防団が活動をしていた。現在も、消防団は活躍しているが、町会の組織は変化してきている。

特に備蓄が、金銭的(物質的)な傾向に主眼がおかれ、精神的サポート、すなわち向う3軒両隣りという連帯感が失われている。この当りを教育して直していくと良いと思う。

〈まとめ〉

山川会長

渡邊さんの地域社会調査の活動報告は息の長い積みかさねによって、我々の奉仕出来る社会ニーズを捜していくという、先の長い活動であると言う事が良く判った。

防災を考えるでは、大日方さん、清原さんには、勉強の結果を披露していただいて御苦労様でした。

そして意見交換では、勉強の成果をふまえ、島田さんから、災害がおきた時、職場ではどう対応するか、という報告をしていただき、四分一さんからは、住民としての意見、町会的な連帯感がうすれて来ているのではないかと指摘があった。

今日の協議会で体験した事を、家庭及び職場に持ち帰って、それを核にして、自分達の回りの防災について考えていただければ、本日の協議会は成功だったと言える。

東京新南ロータリークラブ

会長：山川政樹 副会長：柴藤清三郎 幹事：関 征春
 〒107 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階
 TEL.03-3505-5976 FAX.03-3505-6004
 例会日●毎週金曜日 12時30分
 例会場●東京全日空ホテル 〒107 東京都港区赤坂1-12-33 TEL.03-3505-1111

〈会報委員〉

荒木 昭文、清原 元輔、青野 信次、
 植田 和男、後藤 信夫、新保 國彦、
 相澤 成憲、吉田 用親、高橋 良士、
 吉岡 琢磨、大村 富俊(編集担当順)